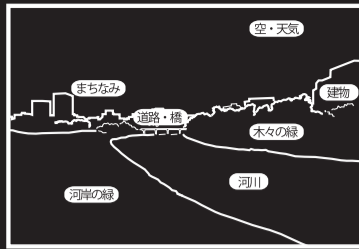


景観とは「見ること」 そして、「感じること」



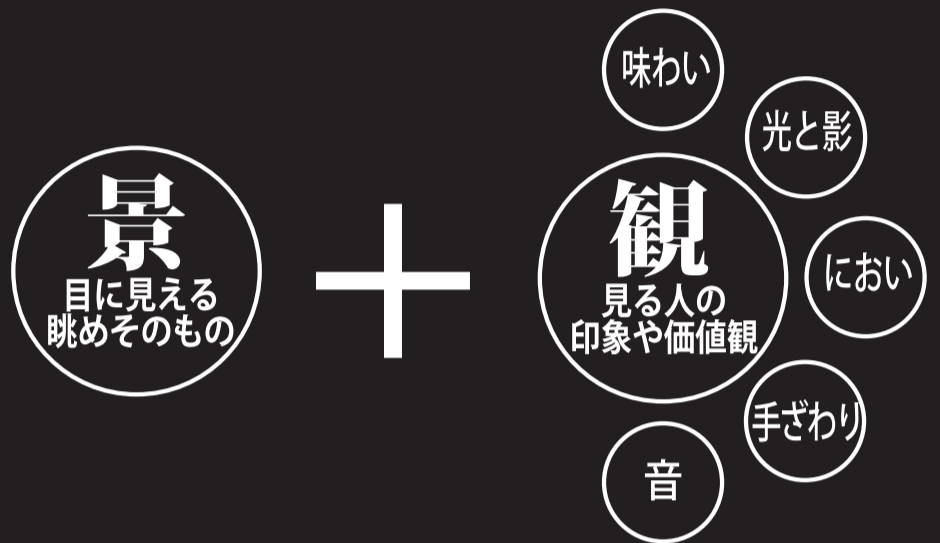
景観をかたちづくるものは場所によって異なります。みなさんが、職場や学校への行き帰り、買い物、散歩などで普段目にはしている景観は、どんな要素でかたちづけられていますか？



「景観」とは

景観とは見ることです。わたしたちが日ごろ目にしているまちの様子のことであり、建物やまちなみ、道路、河川、木々の緑、人々のくらしなど、目に映るものすべてが一体となって景観をかたちづいています。

そして、景観とは感じることです。その土地の歴史や伝統、文化、都市活動や日常生活から生じる雰囲気、さらには人間の五感を通して感じるものすべてを含みます。



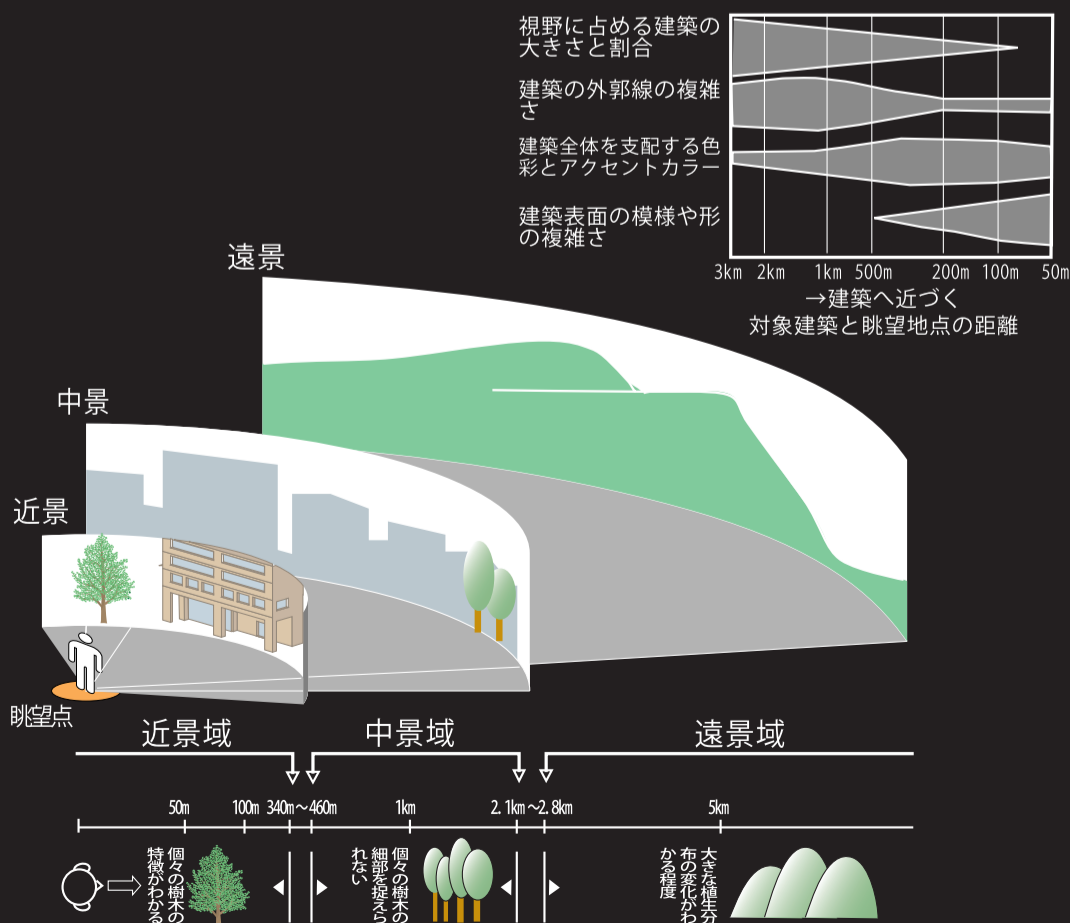
「空間のまとまりや距離感」でとらえる

空間のまとまり

景観は、奥行きのある空間が人の目や心に映る姿であり、身近な空間から遠くの空間まで、さまざまな空間がまとまりとして一体となって、景観をかたちづけられています。

距離による見え方の違い(近景・中景・遠景)

景観をかたちづくる空間は、距離による見え方の違いから、大きく、近景、中景、遠景という区分で表すことができ、それぞれの見え方の違いを意識しながら景観を考えることが大切です。



—空間のまとまりや距離感による景観のとらえ方—

「空間・時間の積み重ね」でとらえる

空間の積み重ね

地形の起伏や水、緑などの自然、歴史的な建造物や路地の形状などと、現代のまちなみが一体となった景観は、その地域ならではの個性を感じさせてくれます。

時間の積み重ね

天候や季節・時間(昼夜)の変化、伝統を感じさせる行事や産業、生活や産業活動に伴う人々のいきいきとしたくらしの姿は、景観に時間に伴う変化や動きを与え、豊かな情感をもたらしてくれます。

豊かな個性や情感のある景観



—空間・時間の積み重ねによる景観のとらえ方—